

ローマ5：1-11 「神を大いに喜んで」

アウトライン（要約）

序）

世間一般での喜び

目標の達成

願いが叶う

など

クリスチャンの喜び

神を喜ぶ喜び

信仰からくるもの

イエス・キリストを通して神を知ることで

本）

イエス・キリストによってもたらされる神の何を知ったから喜びがあるのか

○神との平和 1節～

私たちが今、立っている恵み（平和、平安）

神の栄光に与かる望み（喜び）

イエス・キリストを見失う時、神との平和も見失う

パウロの確信（希望は失望に終わらない）（3-5）

苦難さえも喜べるのは、希望につながると知っているから

苦難＝神への捧げものになっている

忍耐＝ただ耐えることではない

品性＝正しいことを見極める

希望＝失望に終わらない

その神との平和による希望を豊かにもたらしてくれるのは

○神の愛 5節～

心に注がれている（ご聖霊）

もう注がれている、これからも変わらない

弱かった時に、不敬虔な者たちに

ご自分の愛を明らかにされた（8）

神の裁きから救われる

イエス・キリストによる義をいただいた（9）

神の平和はどのように築かれたのか

○神との和解 10節、11節

和解させていただいた

和解が成立していた

一方的な赦しのゆえ

私たちが築こうとする平和

一方的な神の赦しを知っている

身近な人から赦し（愛）の実践

結）

神との平和をいただいている者として、愛すること赦すことができるよう祈っていきたい

そして神を喜ぶ幸いを共に体験していきたい